

## 冬ある故に我在り

凍て付く風をあびながら  
僕は人気のない郊外の道を進む  
閑静なアパルトマンまでの通り

全神経が冬を感じる  
ひしひしと孤独を感じる  
いや、独りの自分と向き合っているんだ  
乾いた景色を薪に据えて、心の暖をとる  
思いつきり、空気を吸って、頭が冴えわたる

冬もいいじゃないか

体で感じるのをやめたとき、僕はどうなるんだろう  
心で考えるのをやめたとき、僕はどこへ行くんだろう  
忙しさで心をなくした

でも、いなくなった「僕」は今ここに